



□施工実例



CSP method Brochure



CSP 工法
パンフレット

<http://csp2013.com>



CSP工法 総合取扱店



Sekitou
株式会社 石 陶

摂津営業所
〒566-0024 大阪府摂津市正雀本町2丁目1-3-101
TEL:06-6170-8012 FAX:06-6170-8002
E-mail: office.2@sekitou.jp
<http://sekitou.com>

CSPmethod **CSP**association

CSPmethod **CSP**association

CSP工法の3大要素

- 1 **ハイスピード・ハイクオリティ** (美しく・強い)
- 2 **クリーンでスマート**な施工
- 3 **不具合発生回避と工期短縮**によるローコスト化

施主様および施工現場様のセラミックタイル使用(選択)とその施工法「CSP工法」選択による優位性

1 施主様のメリット

- ◆満足のいく施工 (経年変化に強い美しい仕上がり) ◆メンテナンスフリー (水拭きだけでOK)
- ◆工期の短縮 ◆セラミックタイルの導入による、省エネ・企業イメージアップ

2 施工現場様のメリット

- ◆上層階では勿論のこと、地上階においても作業場への**重機の往来が極端に少なく粉塵の出る作業も少ないため、作業環境に優しくクリーン**。さらに、先行して開口部を仕上げ、天井、壁の工程が進められる。(工期短縮)
- ◆在来工法(圧着張りやバサ張り)と比較し、**作業効率が高く、工程管理がスムーズ**である。(工期を読み易い、全体工期を縮小可能) 工程的な施工現場様の不安やストレスを解消可能。
- ◆在来工法(圧着張りやバサ張り)による施工では、人為的不確定要素による不具合が発生する可能性が常にあるが、CSP工法は**仕上がりを平均化させる**ことが可能であり、職人の技能にタイルの仕上がりや強度が左右されることが極端に少なくなる。(施主様への製品の安定供給) 施工現場様の顧客に対する**品質管理上の不安とストレスを解消**可能。(施主様、設計事務所様からの高い評価と支持)
- ◆CSP工法で施工した場合、**約半日後に目地入れ作業が可能**(季節により多少異なります)で、**翌日には荷物等の搬送が可能**。よって、後工程のラップ作業が可能となる。

在来工法(圧着張りやバサ張り)の利点と問題点

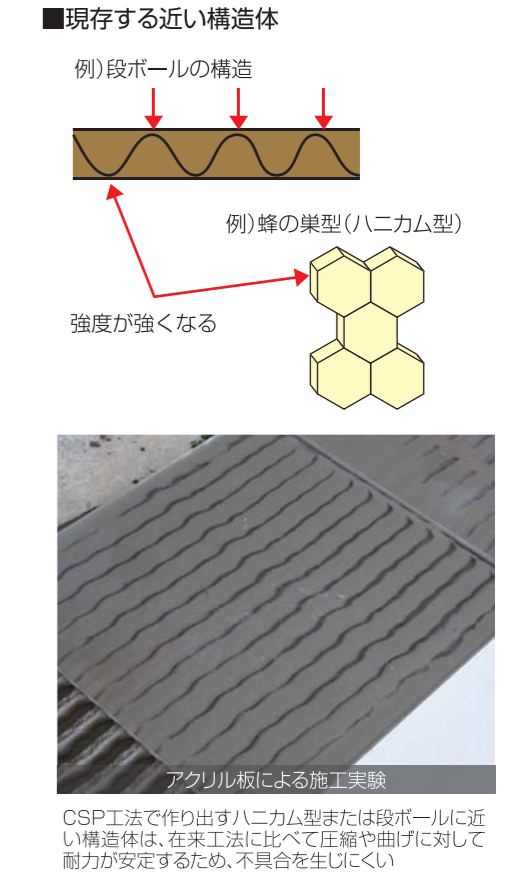
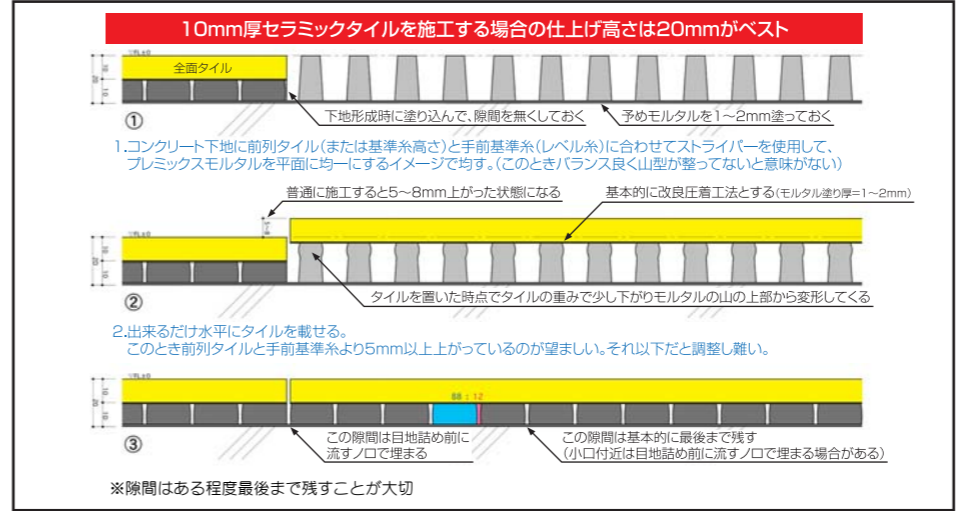
工法	利点	問題点
圧着張り	<ul style="list-style-type: none"> ●施工強度が高い ●経年変化が出にくい ●上層階の施工での軽量化 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ精度に不安がある ●施工時の手戻りがある ●骨材費が高価
バサ張り	<ul style="list-style-type: none"> ●仕上げの精度が良い ●施工速度が速い ●骨材費が安価 	<ul style="list-style-type: none"> ●「浮き」が出やすい ●経年変化による不具合が出る ●上層階での重量の増加 ●粉塵による施工現場の環境悪化



CSP工法とは

床材としてのセラミックタイルは、メンテナンス性や色覚的な美しさ・または大理石などの石材と比較して比較的安価なことから近年その利用が増えていますが、その施工については、従来からのタイルや石材でのもを継承した工法で行われています。しかし、そこには仕上げ後の精度の不安定さや経年変化による不具合の発生、工程上での効率について多くの問題点を抱えていることは施主様や建築業者様のみならず、現場で施工にあたる技能士も認識するところとなっています。在来工法以上の仕上げ**精度と強度**を保ちつつ、それらと比較して**施工速度が早く**多くの点で効率的であり、その結果として**工期の短縮**や**トータルコストダウン**にも大きく寄与出来る画期的な工法です。

CSP工法の基本理論



この構造体を作るのがCSP工法です!!

イメージとしては、協会認定の専用モルタル(CSPモルタル)と専用工具(成形装置)を使い張り付け、下地面に設置(置く)していく。

CSP工法のタイル仕上面と躯体

FLマイナス20ミリが基準です

タイルの仕上面をFL±0ミリとした場合、**躯体面はFLマイナス20ミリが標準仕様**です。(そのときの不陸は±5ミリ内が理想的)

※上記はタイル厚10ミリの場合。それ以外の場合は事前にお問合せ下さい。

注意点

FLマイナス15ミリ以下では**不具合の発生率が高くなり、ボンド代が極端に増えるとコスト高**になります。
〔施工可能目安:FLマイナス15ミリ~35ミリ程度〕

躯体面がFLマイナス35ミリ以上、またはマイナス15ミリ以下であった場合、基本的に**施工不可**。但し、FLマイナス20ミリのなかで部分的に、そのような状況になってしまった場合のみ辛うじて対応可。ボンド代「大」なら、ボンド・モルタルの使用量と施工時間が「増」となり**コスト高**となります。ボンド代「小」なら、**仕上精度に問題が発生しやすい状況**になります。

施工スピード比較 1,000㎡ 施工の平均値(メーカーデータ)

